

# ひの市民活動団体連絡会ニュース32号

平成25(2013)年12月15日  
 発行：ひの市民活動団体連絡会  
 会長 湯口 裕  
 編集：広報部会  
 〒191-0012 東京都日野市日野1369-27  
 TEL / FAX 042-581-6144  
 E-mail:hino-cagcm@tokyo.email.ne.jp  
 URL://hinokaturen.sakura.ne.jp/index.htm.

## 『第2回 ひの市民活動フェア』にぎやかに開催！

当日、天気予報は午後から雨でしたが、天も味方し午後からは晴れ間も出てまいりました。

おかげさまをもちまして、来場者はスタッフも含め1500名と当初の目標を達成することが出来ました。これはひとえに計画から準備、運営と皆様と力を合わせた結果ではないかと思えます。参加団体も52団体と第1回に比べて多くの参加を頂きました。ひの市民活動フェアの目的である「市民の参加と支援者を募る場とする」「市民団体の連携を図る場とする」ことを達成できたのではないかと思います。

当日は公務ご多忙の中、市長はじめ国会議員、都議会議員及び多くの市議会議員のご参列(写真)を頂きました。また大坪市長及び秋山市議会議長から暖かい励ましのご挨拶を頂きました。

オープニングイベントではひの市民活動フェア恒例の日野高校ダンス部61名の「ヒノソング」のダンス(写真)で元気を頂きました。



メイン会場のブース展示(写真)では、各分野の活動紹介を通じて多くの市民の方々に活動を知っていただきました。2階では、どんな人も生きやすいまちになることを目指そう！そして、地域防災を通じて地域コミュニティの重要性を訴える2つの講演会が。また、市民の力で自然可能エネルギーを使った電力会社の立ち上げをしたオランダやデンマークのドキュメンタリー映画の上映がありました。有料、無料にかかわらず、それぞれに多くの市民の方が来場していただきテーマへの関心の高さを感じました。1階の会場の半分にイベント広場を設け、日野発信のイベントを数多く開催し多くの市民の皆さんに楽しんでいただきました。



また今回は初めての試みとしてフェア開催前の9月、10月にプレイベントとして「市民活動体験スタンプラリー」と地域活性化を目的とした「グルメスタンプラリー」を開催いたしました。次回はもっと規模を大きくして開催できるためのノウハウが出来たと思えます。

今回は数字の面では成功と言えますが、反省も多々あります。次回はさらに内容を濃くし、日野市を代表するフェアにするためにも皆様と力を合わせてひの市民活動フェアを作っていきます。最後に実行委員会を代表してお礼を申し上げます。

第2回ひの市民活動フェア実行委員会 委員長 黒川 昭夫



### ～ 市民活動フェアの開催、おめでとうございます ～ 日野市長 大坪 冬彦

50近い市民活動団体が一堂に会して、いろいろな団体が参加していることに驚きました。老舗の団体や最近できたばかりのNPO、子育て・福祉・環境・スポーツ関係等々、実に多彩な団体が展示やステージでパフォーマンスを演じていました。

映画鑑賞や講演会には参加できませんでしたが、一言で言うと「ごった煮」の印象を強く持ちました。良い表現ではないかもしれませんが、元気で、豊かな具材がたくさん詰まっている、しかも熱々の熱気に満ち溢れているご馳走のイメージです。日野市民の大きなパワーを感じる空間の出現でした。これからもよろしくお願い申し上げます。





【 当日の様子を写真でご紹介 】

「わたしの住みたいまち」の優秀賞を表彰(開会式) ↓  
岩崎愛子さんの歌とトーク(ステージ) →  
一輪車クラブひのによる一輪車の演技(イベント広場) ↓



私だけの楽器～声～を知ってうたを好きになろう / インドネシア舞踊 / 大道芸



なかだの森であそぼう！



市民活動フェア・プレイベント 報告  
寄附文化セミナーを開催！

平成25年9月21日、多摩平ふれあい館にて「寄附文化セミナー」を開催しました。参加者は第1部42名、第2部30名でした。

第1部は、専門家・担当者による情報提供がありました。

1. NPO法人と寄付制度について

(地域協働課 大村 国博氏) 写真



2. 市民活動ファンド

先進事例の紹介  
(連絡会会長 湯口裕氏)

3. 認定NPO法人の作り方

(NPO法人やまぼうし 伊藤勲氏  
代読 安田美江氏)  
(NPO法人子どもへのまなざし  
藤浪里佳氏)

第2部は、参加者が4グループに分かれて寄附文化を育てるためにはどうしたらよいかについて話し合いました。



市民活動団体は、まずは自分たちの活動をこまめに情報発信することが必要。寄附を集めるためにも丁寧に情報を発信して活動を理解してもらうことが大切！など大きな気づきをいただきました。

(NPO法人市民サポートセンター 日野 土屋)

… 伊豆大島災害支援金を送りました …

連絡会では伊豆大島災害支援ボランティアを支援する支援金を呼びかけ、10,691円が集まりました。これを、大島社会福祉協議会ボランティアセンターを通じて、台風26号災害復興に取り組むボランティア活動に役立てていただくこととしました。

(寄附文化PT 湯口)





## 食べ歩き飲み歩き・市民活動体験スタンプラリー(開催期間9/1~11/9)

市民活動フェア・イベント作業部会長 蛭田 勝廣

「第2回ひの市民活動フェア」を少しでも盛り上げ、来場者を増やすことを目的に初めて企画いたしました。皆さんの力を借りて協賛先を集めるという高い壁を乗り越えることが出来ました。本当にありがとうございました。「食べ歩き・飲み歩きスタンプラリー」の協賛先は38店舗、「市民活動体験スタンプラリー」の参加団体は9団体(参加企画13)となりました。

そして11月10日「第2回ひの市民活動フェア」当日、来場者は好調に推移しスタンプラリーの抽選所にも多数の方が訪れました。協賛団体をはじめたくさんの皆様のご協力、本当にありがとうございました。



## 第二回「リレー・フォー・ライフ」に参加

リレー・フォー・ライフをご存じですか。今、日本人の2人に1人が癌に罹り、3人に1人が亡くなっています。リレー・フォー・ライフは癌患者とその家族に寄り添い、24時間をリレーでつなぎながら歩き、がん征圧のための寄附を募るチャリティーイベント。1985年に米国で始まり、日本では2006年につくば市から全国に広まっています。日野市では昨年に引き続き去る10月13日、日野市立仲田小学校の校庭で催され、118団体から約1,800名が参加。当連絡会からも有志23名がリレーウォークに加わりました。(湯口)



## ひの市民活動連絡会加盟団体の『NPO 法人子どもへのまなざし』が仮認定を取得しました!

### 連載 「認定 NPO 法人」への道のり (その2)

NPO 法人子どもへのまなざし事務局長  
藤浪里佳

仮認定申請に向かう大きなきっかけとなったのは、平成23年9月、市民活動団体連絡会が開催したセミナーで直接講師の先生とお話をし、「ぜひチャレンジしてください!」と励まされたことでした。背中を押されたことで「やるしかない!」と考えるようになりました。まずは制度自体を知るため、勉強会を開催しました。理事以外にも興味のあるメンバーを交えて勉強会を行ったことで、団体内で認定に向かう機運が高まり、多くの仲間とともに新しいことにチャレンジする喜びを実感しました。支えてくれる仲間の存在は、その後の地道な申請作業を続けていく原動力となったと思います。

平成24年2月臨時総会を行い、認定NPOの申請を行うことの承認を得ました。あとは目標に向かって一直線!と行きたいところでしたが、セミナーや勉強会を通して学ぶたびに、労務管理が整備されていないことを知らされました。

当団体は事業のひとつとして、野外保育「まめのめ」という保育業務を行っており、常勤者とパートタイマーを雇用しています。本来なら法人すべてに加入義務が

ある(たとえ常勤職員がいなくても)労働保険や社会保険の加入義務を怠っていたのです。仮認定申請に際して一番時間がかかったのは、労働条件の提示、雇用契約の締結、就業規則の作成という、労務管理の整備でした。

仮認定を受けた団体は様々な税制優遇を受けることができます。NPO法人として社会的使命を達成するためには、日々の活動を充実させると共に、法人としての義務や社会的責任を果たしていく必要があるのです。今回の仮認定申請を通じて、団体が抱えている運営の課題が浮き彫りとなりました。NPOとは、社会問題の解決を様々な人々と協力して行っていくための仕組みであり、活動内容だけではなく、組織の基盤整備も重要であることを改めて感じました。

平成25年5月、仮認定決定通知書が交付されました。仮認定NPOとなったことはゴールではなく、新しい始まりだと思っています。やっとスタート台に立ったところです。まだまだ課題は山積みです。今後3年間でPSTを満たすために、支援者へのフィードバックや団体の活動内容を広報し、寄付をしやすいしくみを作ることが急務となっています。しかし、忘れてはならないのは、「何のために市民活動をしているのか」という視点です。原点を忘れず、社会の問題解決に向けて邁進し、魅力あるまちづくりに貢献したいと考えています。

地域協働課から

1. 地域協働課 課長の交代について

11月1日付けで、地域協働課課長だった原島由美子が福祉政策課へ異動となり、替わって企画調整課から異動してきた熊澤修が課長を務めます。よろしくお願ひいたします。



2. 第2回ひの市民活動フェア、お疲れ様でした

今年は市制50周年のためいろいろなイベントが目白押しでしたが、11月10日に行われた「第2回ひの市民活動フェア」も昨年を上回る参加団体・集客数を記録して大成功に終わり、市民活動に携わる方々の底力を示

せたのではないのでしょうか。

実行委員会の方々におかれましては、本当にお疲れ様でした。

今年は「2013くらしのフェスタ日野」との同時開催が特徴としてあげられます。消費生活団体の方々のフェスタとの同時開催が行われることで「市民まつり」の印象が強くなり、前回は上回る成果を上げられたように思います。

また学生ボランティアの方々の協力も大きな力でした、若い世代が日野市という地域のことを知る良いきっかけとなりました。

このフェアがさらに広い世代による地域の活性化に貢献できるように、今後とも協力させていただきます。

◆◆事務局だより◆◆

1. ねんも公園除草の御礼

会員の皆様とボランティア（牧野さん）による植木の剪定ご協力を頂き、9月29日無事終了。ご参加の皆さん有難う御座いました！



2. 支援センターの

共同事務所入居者募集

支援センターでは、現在共同事務所の入居者を募集しています。

費用・・・共益費 12,000円/年のみ

パソコン、電話設置OK、すぐにでも入居可能

ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

3. 連絡会の新規会員募集

連絡会会員は現在33団体です。当センターの有効活用や、市民活動をより活性化させるため、新たな加盟団体を募集しています。先のフェア会場でもPRしましたが、皆さまのお知り合いの団体などにお声を掛けて頂きたく、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

皆さん、まちづくりの仲間を増やしましょう！

○▼□加盟団体活動紹介○▼□



NPO 法人日野映像支援隊

「ロケ隊と市民との架け橋になって」

映画やテレビのロケはいま、日野市民の暮らしの風景に溶け込んで久しい。ふれあい橋で…公園で…学校で。

ロケというのは制作会社が番組企画を決めテレビ局と相談しながらキャスティングして進められる。この期間は長くて半年～1年。

短くて1ヶ月位。その途中でロケ地が課題となり我々が相談を受けることになる。

お陰様で日野をロケの街と認じて、制作会社からの相談はふえる一方。かつて市民の間では、ロケは余計な迷惑なモノに過ぎなかったが、昨今、有名俳優が登場する番組を誘致出来れば、その地域のステータスは上がり、地域経済は活性化するという効果が謳われ

大いにもてはやされることが多くなった。私達が日野市役所と協働スタイル

でこの事業を始めて12年。当初を振り返ると隔世の感がある。ロケ

隊と市民との架け橋になりロケが非日常の出来事として市民に楽しんで頂けるようになった。番組の終わり等に「日野市」のテロップ

をご確認される方も多くなったのでは？

私達の夢は 日野にロケ名所を誕生させたい！！日野を舞台として描かれる映画がつけられたら～そんな願いをこめて、誘致に励み

つつロケを楽しんでいます。

(代表 中川節子)



テレビ東京水曜ミステリー 12/18放送「嫌われ監察官 音無一六」 主演:小日向文世さんが日野市ファーマーズセンターを訪れて

編集後記

市民の立場で、子どもの育ちや子育て支援に関わるようになって10年が経つ。「どうしてそんなに頑張れるの？」

とよく聞かれる。他のボランティア活動も同じだと思うが、大変じゃないと言うと嘘になるけれど「大変！」だけではないたくさんの「喜び」を活動の中でもらってきた。同じ想いを持った仲間と共に自分にできることに全力で取り組める場があることに感謝したい。今、まちづくりには市民の力が不可欠だ。もっと広げ、日野市の市民活動の輪！ (NPO法人子どもへのまなざし 中川ひろみ)